

2021年度 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2022年1月27日(木)15:30~16:30

全体

Q:2023年度営業利益率目標を前倒しで達成する計画だが、中期計画目標を見直す予定は。

A:

・2023年度目標売上高1兆円、営業利益率8%以上を変更する予定はない。

Q:部材調達リスクの状況は。

A:

・アジア諸国のロックダウンの影響等により、電子部品、樹脂等の多くの部材で調達難が継続しており、コンポーネントの一部製品で売上影響が出ているが、複数購買や長期契約、代替品の選定等の推進により、業績に大きな影響はない。

Q:素材価格の高騰影響は。

A:

・素材価格高騰影響は、年間約70億弱(上期20億強、下期40億強)の影響を受けるが、コストダウンや販売価格アップ等でカバーしている。

Q:販売価格アップを実現しているセグメントは。

A:

・素材価格高騰影響を受けている食品流通、パワエレ、半導体で、販売価格アップを実現している。

Q:1Qから3Qの主要コンポーネントの受注高は、売上高に比べて伸長が大きいですが、この傾向は4Q以降も継続するのか。

A:

・1Qから3Qまでは、先行発注もあり受注高の方が高く推移してきた。4Qは、売上高に比べて受注高が減少する前提で、業績予想を算出している。

Q:主要コンポーネント以外の3Q累計受注高が対前年で減少している要因は。

A:

・パワエレ インダストリーのITソリューションにおける前年度のGIGAスクール大口案件の反動減。それ以外のプラント・システム案件の受注高はプラスになっている。

Q:政策保有株に対する方針は。

A:

・2019年3月末時点で102銘柄保有していた上場株式を、2021年10月末時点では51銘柄に減らしている。2023年度中期経営計画中にさらに縮減を図っていく。

パワエレ

Q:カーボンニュートラルの実現に向けてスコープ3まで対応する企業が増える中、パワエレのカーボンニュートラル関連の商談状況と受注が顕在化する時期は。

A:

・カーボンニュートラルに関連する商談が増えており、昨年9月に設置したパワエレ特化のパワエレ営業本部が顧客の様々なご要望を集約し対応している。

- ・顧客からパイロットプラントのイメージで多くの受注をいただき、2桁億円程度のレベルにある。2024年、2025年には本格的に売上が拡大すると期待している。

パワエレ エネルギー

Q:パワエレ エネルギーのサブセグメント別の4Q見通しは。

A:

- ・エネルギーマネジメントは対前年で減収を見込んでいる。施設・電源システムは、データセンターや半導体メーカー向けが堅調に推移し増収増益の見通し。器具は、工作機械向けの需要が強く、受注残を多く抱えている為、為替影響を除くと増収増益の見通し。

Q:器具の受注が好調なエリアと4Qの見通しは。

A:

- ・器具は、国内、中国、アジアで想定以上に伸長した。4Qは受注が減少する前提で計画したが、直近の状況では計画を上回る受注が見込まれる。

パワエレ インダストリー

Q:低圧インバータの受注について、3Qが想定以上に伸長した理由と4Q見通しは。

A:

- ・低圧インバータの3Q受注は、対2Qで若干減少する見通しだったが、国内は先行発注が継続し2%増、海外は34%増となった。海外の国別には、中国は実需ベースで2Qまで好調に推移しており、3Qからは若干先行発注があった。欧州のエレベーター向け、米国のオイル&ガス向けは先行発注を含まず、好調に推移している。
- ・4Qは、受注が減少する前提で計画したが、直近の状況では、受注が好調に推移しており、来年度売上分が積みあがっている状況だ。

半導体

Q:半導体の3Q受注状況と4Q見通しは。電装分野のうち電動車向けの受注状況は。

A:

- ・産業分野の3Qは対2Qで4%減となっているが、先行発注・為替影響を除けば、ほぼ横ばい。電装分野の3Qは対2Qで9%増。そのうち電動車向け(IGBT)が20%強の増、それ以外は約10%減。先行発注は対2Qで減ってきた。
- ・4Qは、産業分野、電装分野合わせて、対3Qで約5%増の見通し。電装分野は10%超、うち電動車は搭載車種の拡大により20%弱の増加見通し。産業分野は若干増の見通し。(先行発注・為替影響除く)

Q:半導体の生産能力増強に伴い、売上高は3Qから4Qにかけても10%増を期待できるか。来期の生産能力の見通しは。

A:

- ・今期は2Qから4Qにかけて8インチの生産能力を徐々に引き上げており、4Q売上は為替影響を除くと、対3Qで増加の見通し。
- ・来期末の8インチ生産能力は、対今期末で約50%増の見通し。

Q:半導体の3Q累計の営業利益率が15%と高水準を維持できている背景は。

A:

- ・顧客の旺盛な需要を背景に生産フル稼働を続けており、設備投資による資本費負担をカバーしている。

Q:半導体の2023年度中期計画の売上高の最新の見通しは。

A:

- ・中期計画は、半導体1,750億円、ディスク媒体250億、合計2,000億円(旧電子デバイス)であるが、(撤退した)ディスク媒体を除いても、2,000億円以上の売上高を実現できるだろう。

Q:RC-IGBTの競合状況は。次世代品の開発状況は。

A:

- ・競合もRC-IGBTは手掛けており、そろそろ出てくるとみている。
- ・次世代開発は進んでおり、2023、2024年から供給予定。

Q:本日発表したSiCパワー半導体の設備投資の狙いとこのタイミングで意思決定した理由は。また、津軽に決定した理由は。

A:

- ・自動車の電動化が加速し、市場拡大が見込まれるなか、(搭載機器の省エネ、小型・軽量化を実現する)SiCのメリットが大きく活かせる電動車に適用範囲を広げることが狙い。このたび、お客様より具体的な物量提示をいただいたことから、SiCパワー半導体の増産投資を決定した。
- ・松本工場にある現有生産ラインは技術開発の要素もあった。本格量産にあたり、ルネサス向けファウンドリ生産をほぼ終了した津軽工場を活用する。

Q:国内最大手自動車メーカーがEVシフトを鮮明にしているが、中長期的な戦略に変化はあるか。本日の新聞記事に記載のあった自動車メーカーとの共同出資について具体性はあるか。

A:

- ・EVシフトは大手だけでなく、各社とも進めている。現時点で当社戦略に大きな変化はない。将来に向けてSiCパワー半導体の需要が増える認識は変わらない。
- ・共同出資は、一つの選択肢としてあるが、現時点では具体的な話はない。

発電プラント

Q:発電プラントの3Q累計業績は対前年で悪化しているが、業績予想の達成リスクは。

A:

- ・2021年度の売上・利益は4Qに偏重しているが、4Q売上案件の殆どは注残案件だ。新型コロナウイルス感染拡大による案件延伸リスク等を注視し、目標達成に向け取り組む。

以 上